



YUZURU 譲カード

※ A 4用紙に等倍で印刷してください

カードサイズ：53.98mm×85.60mm（クレジットカードサイズ）

集中治療を譲る意志カード	
	新型コロナウイルス感染症で人工呼吸器や人工肺などの高度治療を受けている時に機器が不足した場合には、私は若い人に高度医療を譲ります。
署名年月日	年 月 日
本人署名 (自書)	
©一般社団法人 日本原始力発電所協会	

集中治療を譲る意志カード	
	新型コロナウイルス感染症で人工呼吸器や人工肺などの高度治療を受けている時に機器が不足した場合には、私は若い人に高度医療を譲ります。
署名年月日	年 月 日
本人署名 (自書)	
©一般社団法人 日本原始力発電所協会	

新型コロナウイルスの感染が蔓延し、医療崩壊が心配されています。集中治療室が機能不全になり、人工呼吸器が不足すると命の選択が迫られるかもしれません。実際にイタリアでは回復見込みの少ない高齢者の人工呼吸器を取り外して若い人に使用するという「命の選択」が始まっています。ただでさえ忙しい医療関係者に「命の選択」まで迫るのは酷な話です。では医療関係者がそのような苦渋の判断をする苦勞を少なくするにはどうすれば良いのでしょうか？

それは我々高齢者が「高度医療を万が一の時に若者に譲ると言う意思」を示せば良いのではないのでしょうか？私は若い時に国立循環器病センターで心臓移植に関わっていました。当時はまだ心臓移植が認めておられずに若い心不全の患者さんが心臓移植を始まるのを心待ちにしながら亡くなっていくのを悔しい思いをして、移植が開始される日を待ちました。中には街頭で資金集めをして米国などで心臓移植を受ける患者さんもおられました。海外では自分の国でも臓器が足りないのに、異国からの患者に移植をするのはいかがなものかとの論議もありました。紆余曲折を経てやっと2009年にいわゆる臓器移植法が成立し、日本の心臓移植も軌道に乗ってきています。

臓器移植法が成立するまでには、やはり今回のように「命の選択」という倫理的な問題が立ちはだかりました。現場でがんばっている若い先生方に同じような苦勞はかけたくないと思い、今回は高度な医療機器が逼迫したときにその機会を譲ってもいいよって言う意思を伝えるために「譲カード」を作成しました。

私も早速このカードに署名して万が一のときには若い人に高度な医療機器を使っていただきたいと思います。私たち高齢者は普段から若者に席を譲ってもらったりと親切にしてもらっていますので、今回は自ら高度な医療機器を譲る意思を示すのも良いのではないのでしょうか？

2020年04月08日 石蔵 文信